

# NORITSU

*face the NEXT™*

## 決算補足説明資料

2021年12月期 第1四半期  
(2021年1-3月)

ノーリツ鋼機株式会社

証券コード：7744（東証1部）

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

## ■ 事業EBITDAについて

事業EBITDAは、営業利益から、その他の収益・費用を加減し、減価償却費及び償却費（使用权資産の減価償却費を除く）を加えて算出しております。

連結財務諸表上に定義されていない指標であるものの、非経常的な損益や償却費に左右されない企業の本来の収益力を示すことから、連結財務諸表の利用者がノーリツ鋼機の業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

## ■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

# 開示資料の比較について

- 2020年12月期は決算期変更により9か月の変則決算であったため、2021年12月期の決算短信及び有価証券報告書における前年同期比較において、対象となる月が異なります。
- 決算補足説明資料については、四半期のタイミングを合わせ開示いたします。

		2020年（前期）												2021年（当期）											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
決算短信/ 有価証券報告書					第1四半期			第2四半期			第3四半期			第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
	決算補足 説明資料	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		

**1** 2021年12月期 第1四半期連結業績

**2** 2021年12月期 通期連結業績予想

**3** セグメント別トピックス

**4** APPENDIX

# 2021年12月期 第1四半期連結業績 ハイライト

- 売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益ともにAlphaThetaのグループ入りにより大きく伸長
- 業績予想に対しても主にAlphaTheta（音響機器関連）が好調に推移

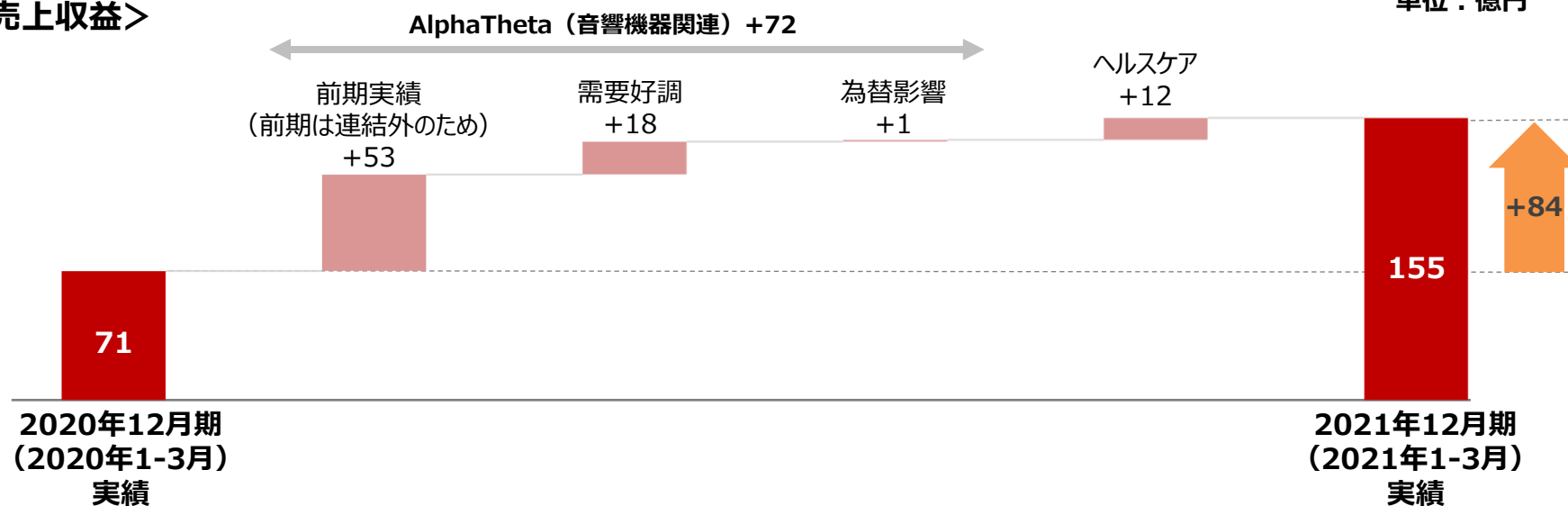
単位：百万円	2020年12月期 (2020年1-3月) 実績	2021年12月期 (2021年1-3月) 実績	対前年同期		
			増減額	増減率	
売上収益	7,082	<b>15,515</b>	+8,432	+119.1%	
事業EBITDA	1,783	<b>4,462</b>	+2,678	+150.2%	
事業EBITDAマージン	25.2%	28.8%			
営業利益	554	<b>3,616</b>	+3,062	+552.6%	
親会社の所有者に帰属する当期利益	212	<b>1,263</b>	+1,051	+495.1%	
為替レート*1 (平均)	米ドル (円)	108.9	105.9	△3.0	-
	ユーロ (円)	120.1	127.7	+7.6	-
為替レート*1 (期末)	米ドル (円)	108.8	110.7	+1.9	-
	ユーロ (円)	119.6	129.8	+10.2	-

\*1 為替前提についてはP.31参照、増減額については△が円高、+が円安となります。

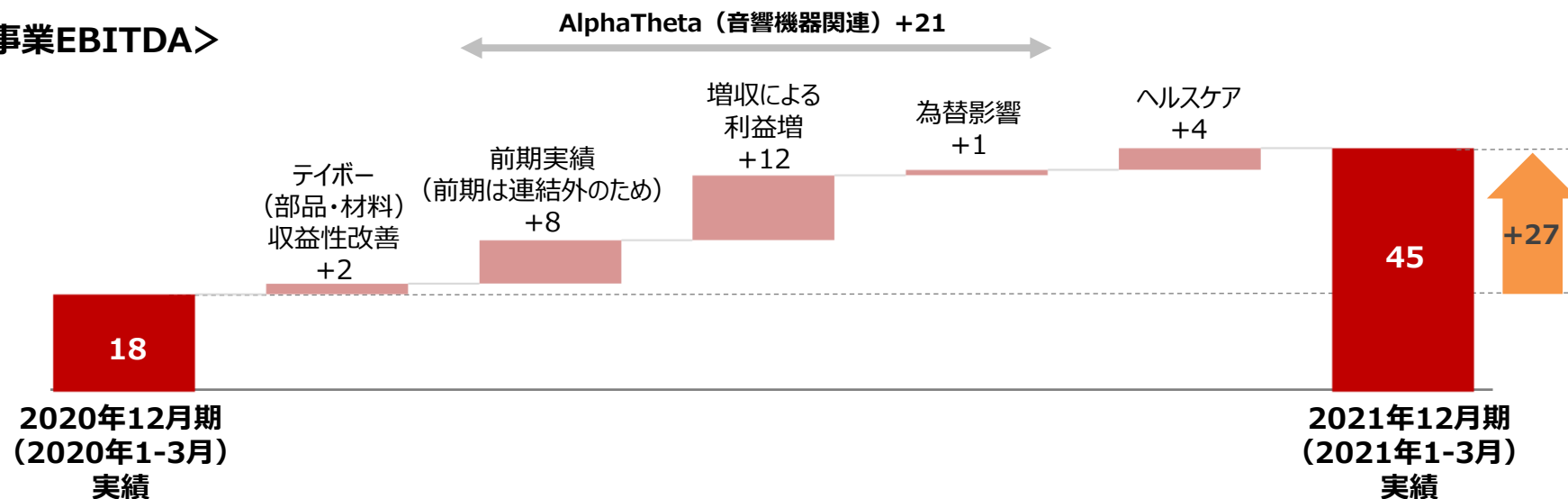
# 売上収益・事業EBITDA 増減分析

## <売上収益>

単位：億円



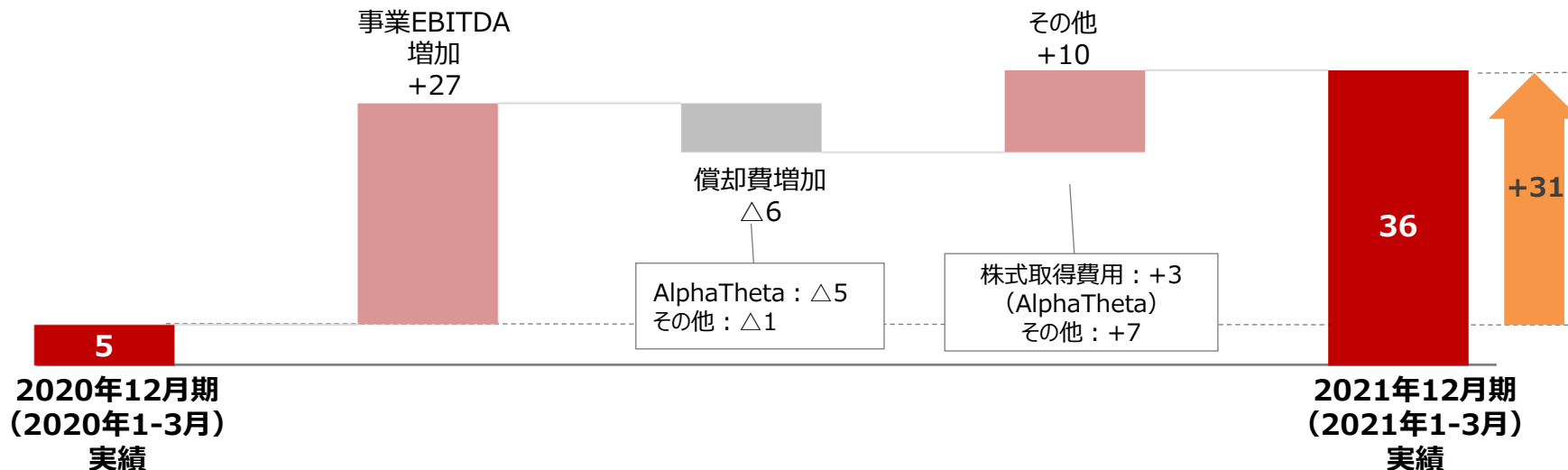
## <事業EBITDA>



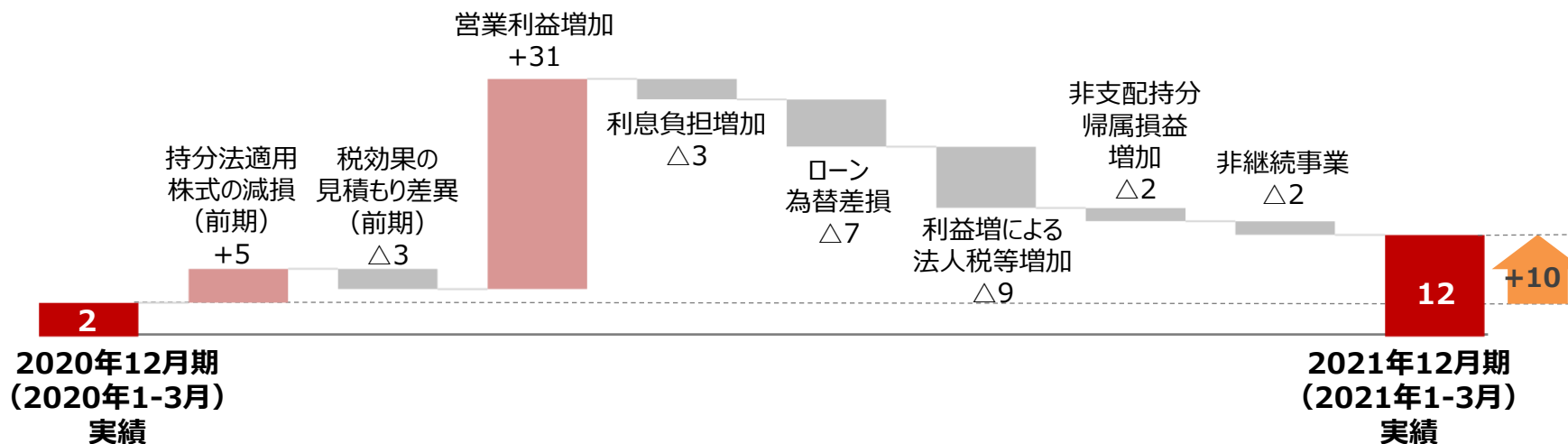
# 営業利益・親会社の所有者に帰属する当期利益 増減分析

## <営業利益>

単位：億円



## <親会社の所有者に帰属する当期利益>



# バランスシートの状況

単位：百万円	2020年 12月期末	2021年 3月末	増減額
現金及び現金同等物	69,596	54,542	①△15,054
売上債権及びその他の債権	12,037	13,365	+1,328
棚卸資産	5,756	5,624	△131
のれん	53,222	54,513	+1,291
無形資産	63,450	62,982	△468
繰延税金資産	2,790	2,506	△284
その他	29,398	29,154	△243
<b>資産合計</b>	<b>236,252</b>	<b>222,689</b>	<b>△13,562</b>
仕入債務及びその他の債務	8,267	8,932	+665
借入金（流動・非流動）	81,035	65,922	②△15,112
繰延税金負債	9,163	8,734	△428
その他	18,600	17,439	△1,160
<b>負債合計</b>	<b>117,066</b>	<b>101,029</b>	<b>△16,037</b>
親会社の所有者に帰属する持分合計	105,416	107,335	+1,919
非支配持分	13,769	14,324	+555
<b>資本合計</b>	<b>119,185</b>	<b>121,660</b>	<b>+2,474</b>

## （増減要因）

- ① 現金及び現金同等物の減少△150億円は、借入金の繰上返済150億円が主な要因
- ② 借入金の減少△151億円は同じく繰上返済150億円が主な要因



# セグメント別 売上収益／事業EBITDA

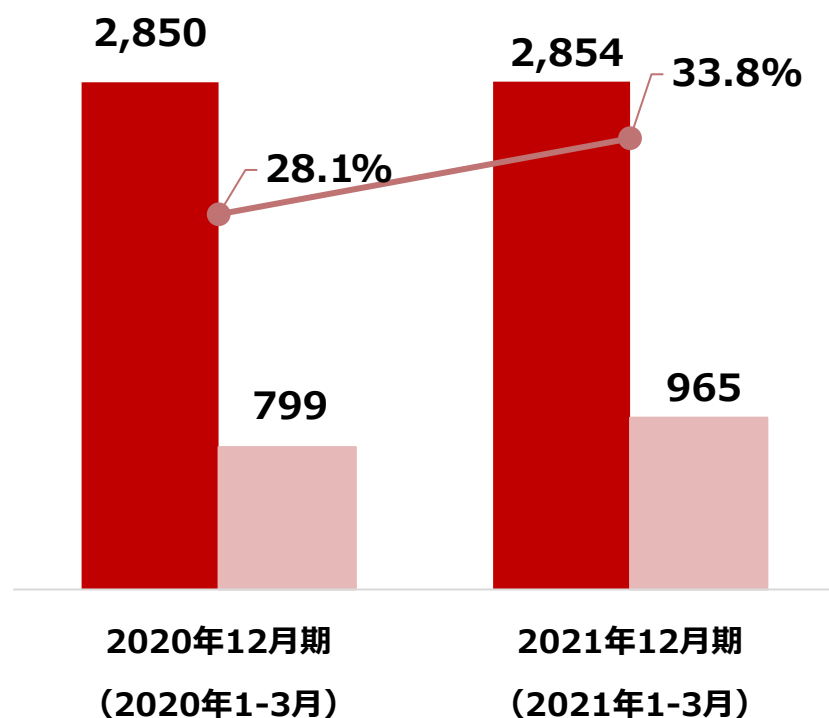
単位：百万円	売上収益			事業EBITDA		
	2020年12月期 (2020年1-3月) 実績	2021年12月期 (2021年1-3月) 実績	対前年同期 増減率	2020年12月期 (2020年1-3月) 実績	2021年12月期 (2021年1-3月) 実績	対前年同期 増減率
ものづくり	2,850	10,093	+254.1%	799	3,085	+285.7%
部品・材料	2,850	2,854	+0.1%	799	965	+20.7%
音響機器関連	-	7,238	-	△0	2,119	-
ヘルスケア	4,185	5,422	+29.6%	1,161	1,552	+33.7%
医療情報 *1 *2	3,988	5,175	+29.8%	1,101	1,498	+36.0%
医療検査	197	246	+24.8%	59	54	-9.0%
その他	46	-	-	△4	-	-
全社費用	-	-	-	△173	△175	-
連結合計	7,082	15,515	+119.1%	1,783	4,462	+150.2%

\*1 JMDCに異動したNSパートナーズの数字を含みます。

\*2 当社の事業EBITDAは「使用権資産の減価償却費は除く」と定義している点において、JMDCが公表しているEBITDAとは異なります。

単位：百万円

■ 売上収益 ■ 事業EBITDA ● 事業EBITDAマージン



## 売上収益 +0.1% 前年同期並み

- ・ 新型コロナウイルスから徐々に回復
- ・ 筆記は、新型コロナウイルスの影響が続き減収となるも、徐々に需要が回復
- ・ コスメは、中国市場を中心に需要が回復
- ・ MIMは、自転車分野及び自動車分野が好調に推移し、成長を維持

## 事業EBITDA +20.7% 増益

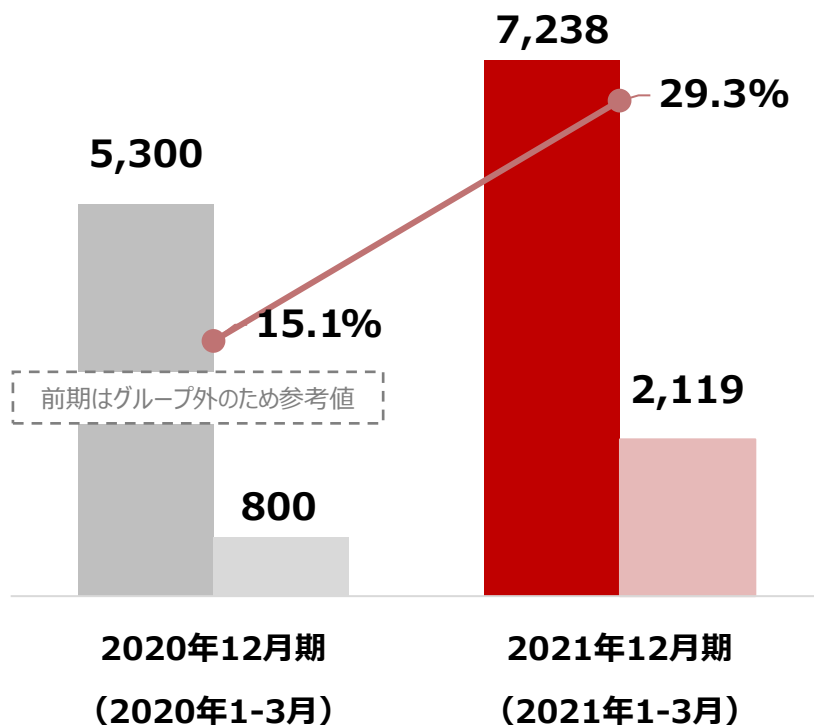
- ・ 生産量の復調と生産効率向上により収益性が改善
- ・ 引き続き高い収益性を維持し、グループの基盤事業として安定した収益の創出を目指す

売上収益	2020年1-3月	2021年1-3月	増減率
筆記	2,054	1,859	-9.5%
コスメ	304	343	+12.8%
MIM	391	544	+39.1%
その他	99	106	+7.1%

# ものづくりセグメント – 音響機器関連

単位：百万円

■ 売上収益 ■ 事業EBITDA ● 事業EBITDAマージン



## 売上収益 +36.6% 増収

- ・ 欧米では新型コロナウイルス感染症が再拡大するも、ホームユース向けを中心に需要及び販売が好調に推移
- ・ 中国ではクラブ・イベント会場向けの販売も好調で、高い成長を維持
- ・ 部品サプライヤー工場の火災などの影響による供給面の懸念があったものの、市中在庫の確保や、代替部品の置換設計により対応し、影響は軽微（2Q以降はP21参照）

## 事業EBITDA +164.9% 増益

- ・ 売上収益の増収に伴い増益、利益率向上

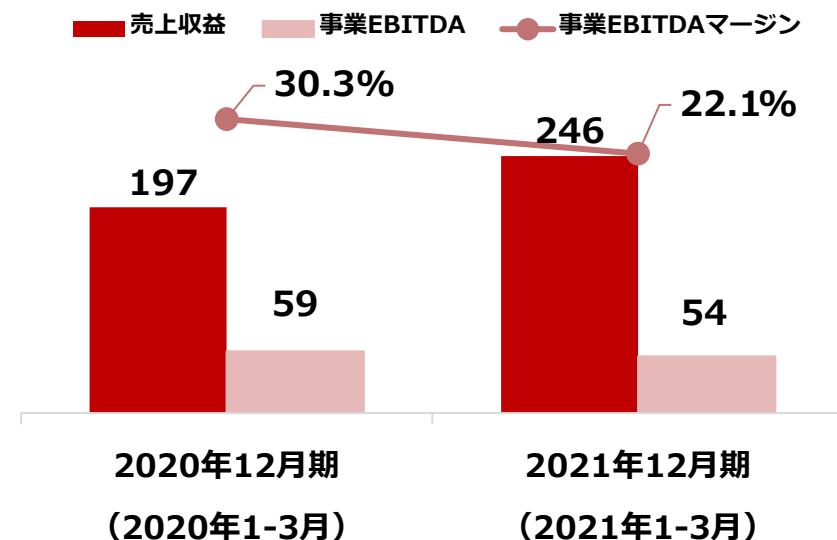
	2020年1-3月	2021年1-3月
DJ機器出荷台数	95千台	131千台
DJ向けアプリケーションMAU*1	57.4万人	62.1万人

\*1 2020年1-3月、2021年1-3月の平均値

# ヘルスケアセグメント－医療検査

\*医療情報については、JMDCの決算資料をご参照ください。

単位：百万円



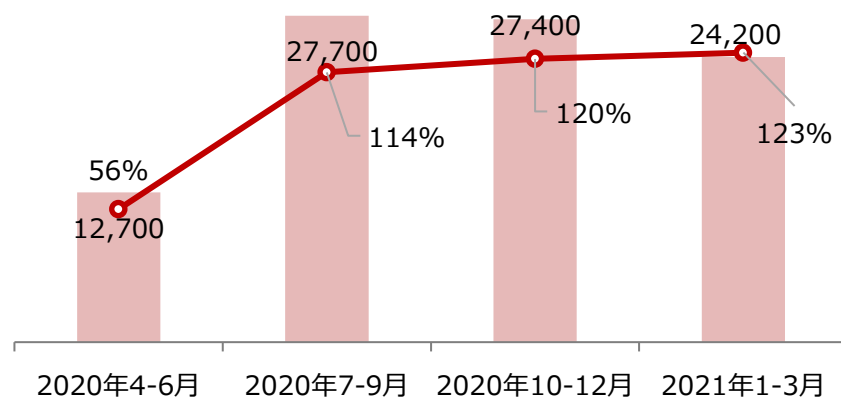
## 売上収益 +24.8% 増収

- 緊急事態宣言の再発令に伴う来院控えの影響が一定程度あったものの、影響は軽微で成長基調を維持

## 事業EBITDA -9.0% 減益

- 増収となるも人員増加等の管理体制強化により減益

## LOX-index® 検査数前年同月比 推移



**1** 2021年12月期 第1四半期連結業績

**2** 2021年12月期 通期連結業績予想

**3** セグメント別トピックス

**4** APPENDIX

# 連結通期業績予想修正（対期初予想）

- JLab(\*) 買収、音響機器関連の部品納入遅延、医療情報の更新、直近為替相場を反映
- 売上収益、営業利益は増収増益、親会社の所有者に帰属する当期利益は金融費用及び法人税等の増加により据え置き

\*PEAG, LLC dba JLab Audio（以下「JLab」）

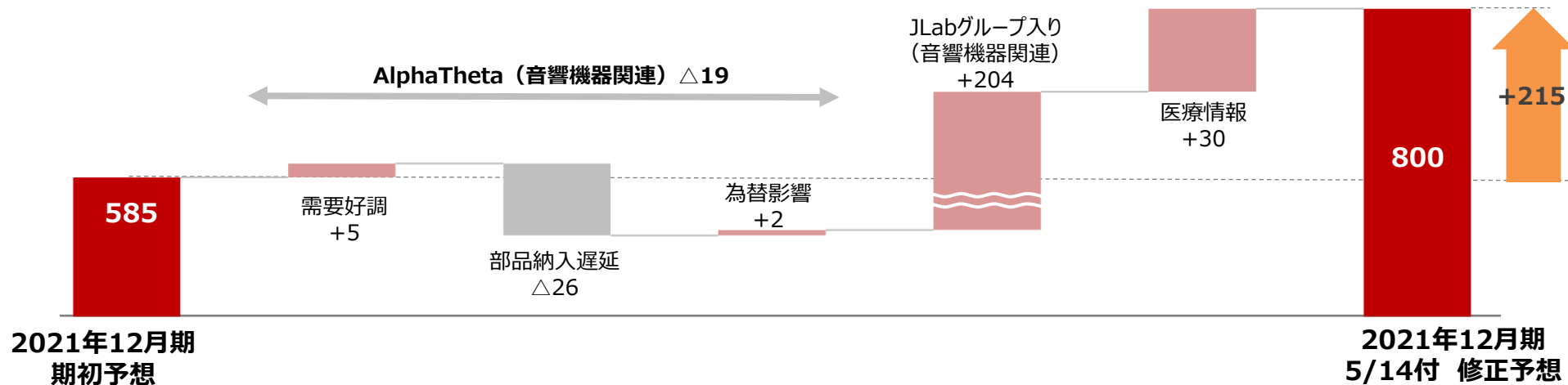
単位：百万円	2021年12月期 (2021年1-12月) 期初予想	2021年12月期 (2021年1-12月) 5/14付 修正予想	対期初予想		
			増減額	増減比	
売上収益	58,500	80,000	+21,500	+36.8%	
事業EBITDA	12,800	17,100	+4,300	+33.6%	
事業EBITDAマージン	21.9%	21.4%			
営業利益	8,700	10,000	+1,300	+14.9%	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	3,400	3,400	-	-	
為替レート (平均)	米ドル (円)	106.0	106.0	-	-
	ユーロ (円)	122.0	125.0	+3.0	-
為替レート (期末)	米ドル (円)	103.0	103.0	-	-
	ユーロ (円)	127.0	130.0	+3.0	-

※現在の見直しには、潜在的なリスクや不確実性を含んでおり、本資料発表時点で想定する影響額及び足元の状況を織り込んでおりますが、これらの見直しとは異なる結果になる可能性があります。今後、新たに業績見直しの変動する場合には、速やかにお知らせいたします。

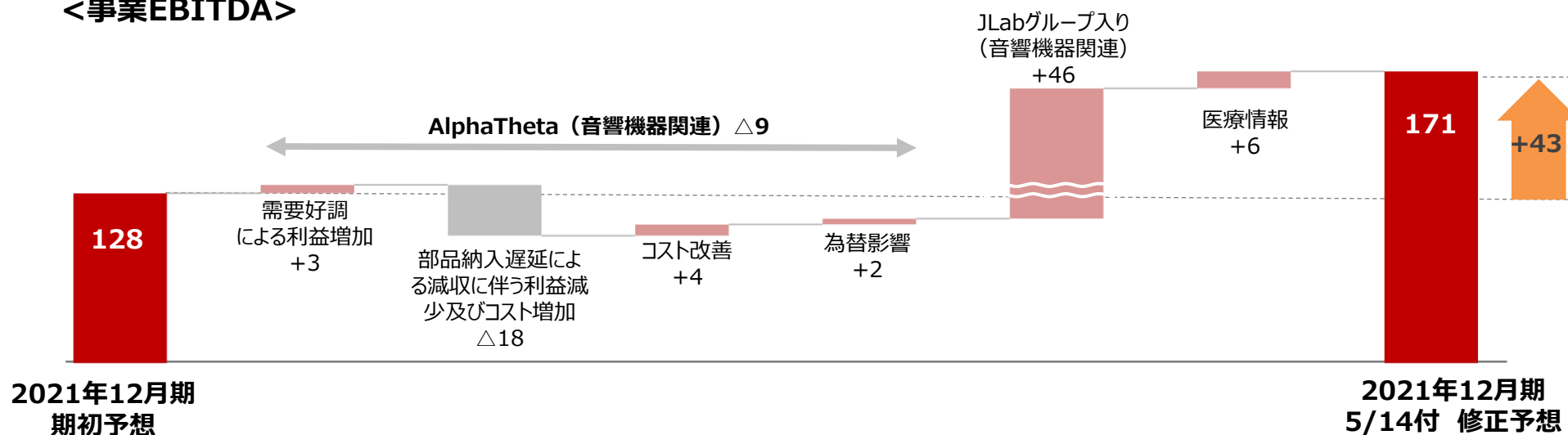
# 連結通期業績予想修正 増減分析 1/2

## <売上収益>

単位：億円



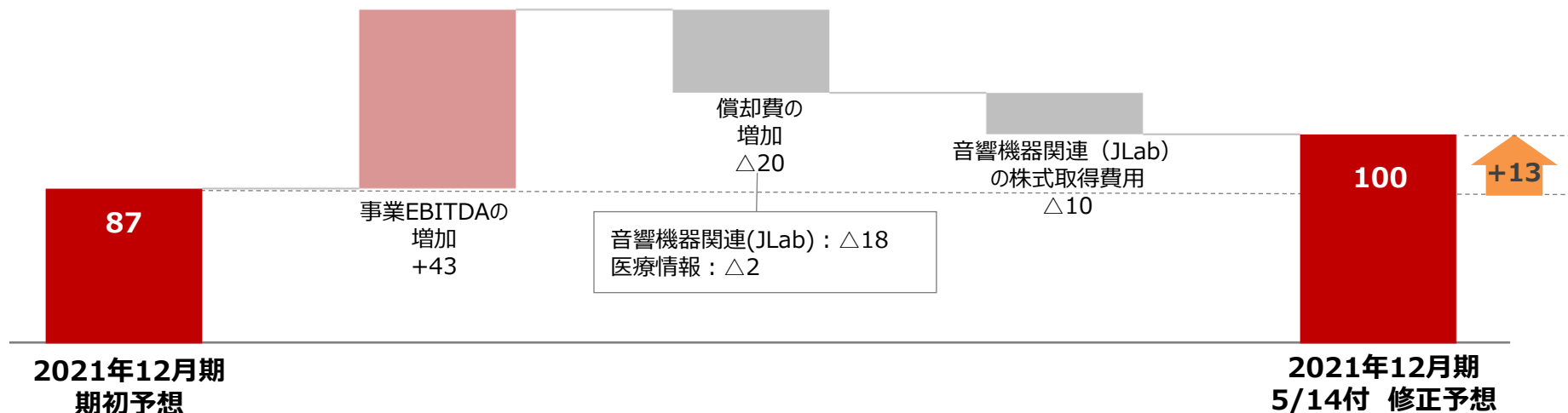
## <事業EBITDA>



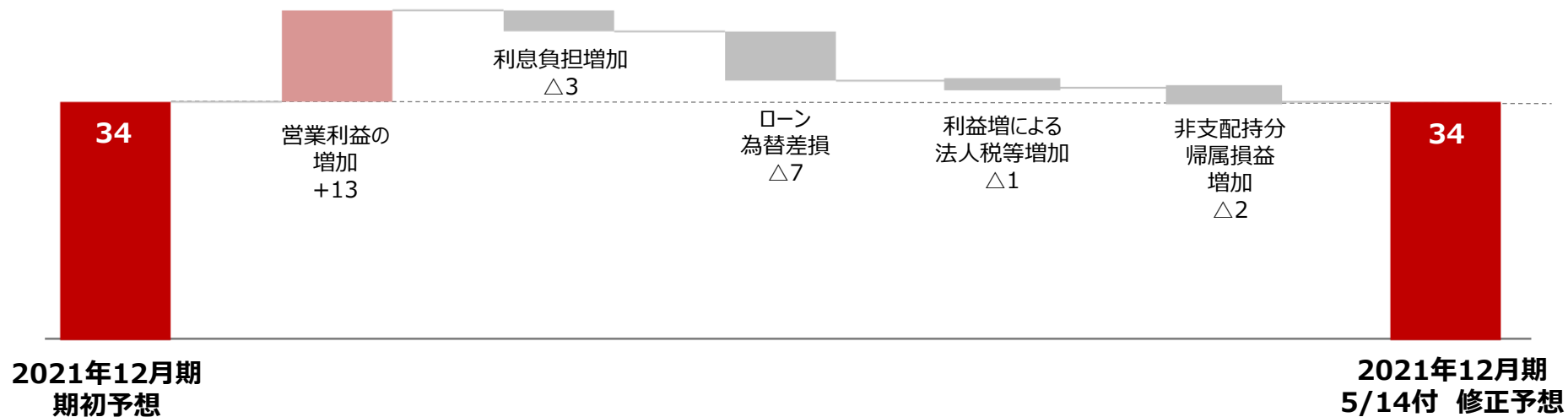
# 連結通期業績予想修正 増減分析 2/2

## <営業利益>

単位：億円



## <親会社の所有者に帰属する当期利益>





# 2021年12月期 連結通期業績予想（対前期）

- 売上収益、営業利益は、増収増益の予想
- 親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期は子会社株式売却益や税効果等を利益計上したため減益予想（それら一過性の影響を除くと、事業成長及びM&Aに伴い増益）

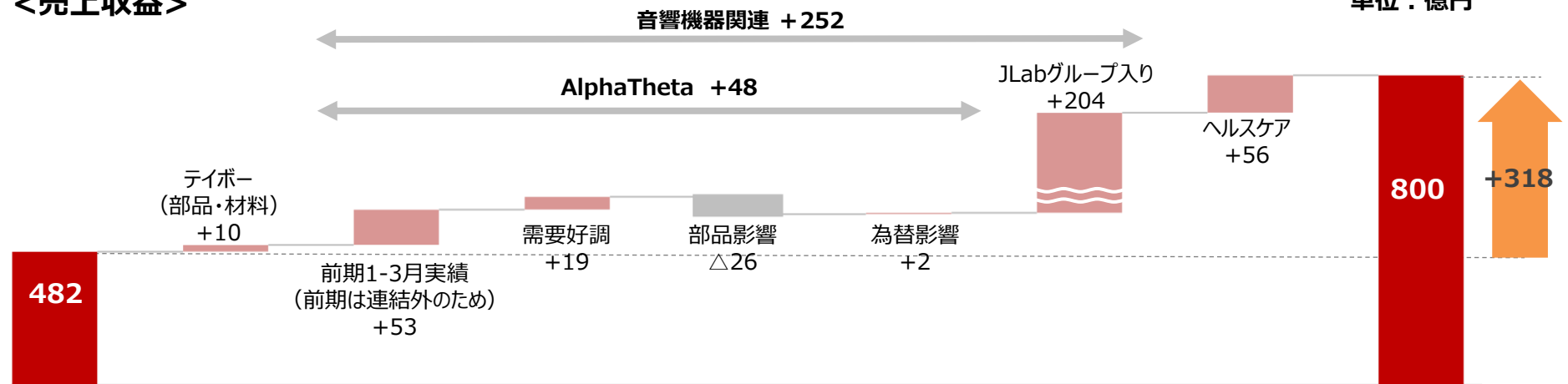
単位：百万円	2020年12月期 (2020年1-12月) 実績	2021年12月期 (2021年1-12月) 5/14付 修正予想	対前期		
			増減額	増減比	
売上収益	48,230	<b>80,000</b>	+31,770	+65.9%	
事業EBITDA	11,271	<b>17,100</b>	+5,829	+51.7%	
事業EBITDAマージン	23.4%	21.4%			
営業利益	6,373	<b>10,000</b>	+3,627	+56.9%	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	10,107	<b>3,400</b>	△6,707	-66.4%	
為替レート (平均)	米ドル (円)	106.1	106.0	△0.1	-
	ユーロ (円)	122.4	125.0	+2.6	-
為替レート (期末)	米ドル (円)	103.5	103.0	△0.5	-
	ユーロ (円)	127.0	130.0	+3.0	-

※現在の見直しには、潜在的なリスクや不確実性を含んでおり、本資料発表時点で想定する影響額及び足元の状況を織り込んでおりますが、これらの見直しとは異なる結果になる可能性があります。今後、新たに業績見通しの変動する場合には、速やかにお知らせいたします。

# 連結通期業績予想 増減分析（対前期）

## <売上収益>

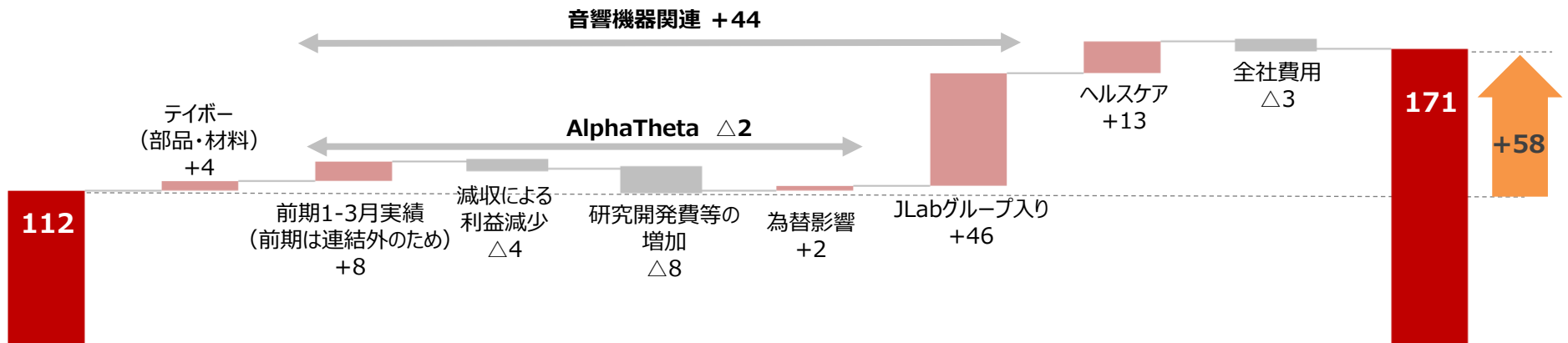
単位：億円



2020年  
12月期

2021年12月期  
5/14付 修正予想

## <事業EBITDA>



2020年  
12月期

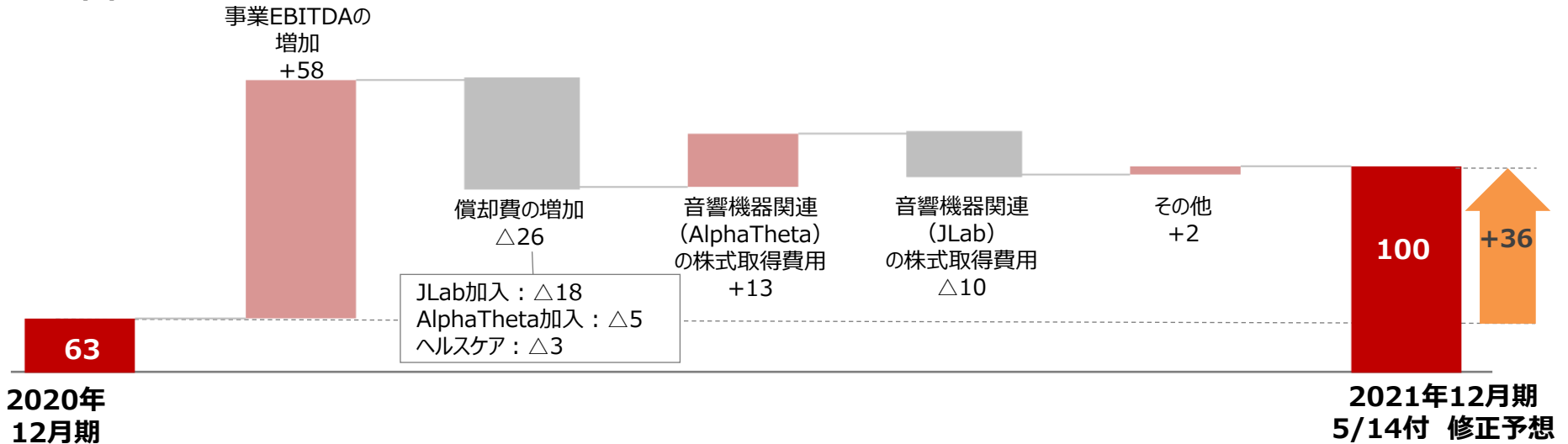
2021年12月期  
5/14付 修正予想



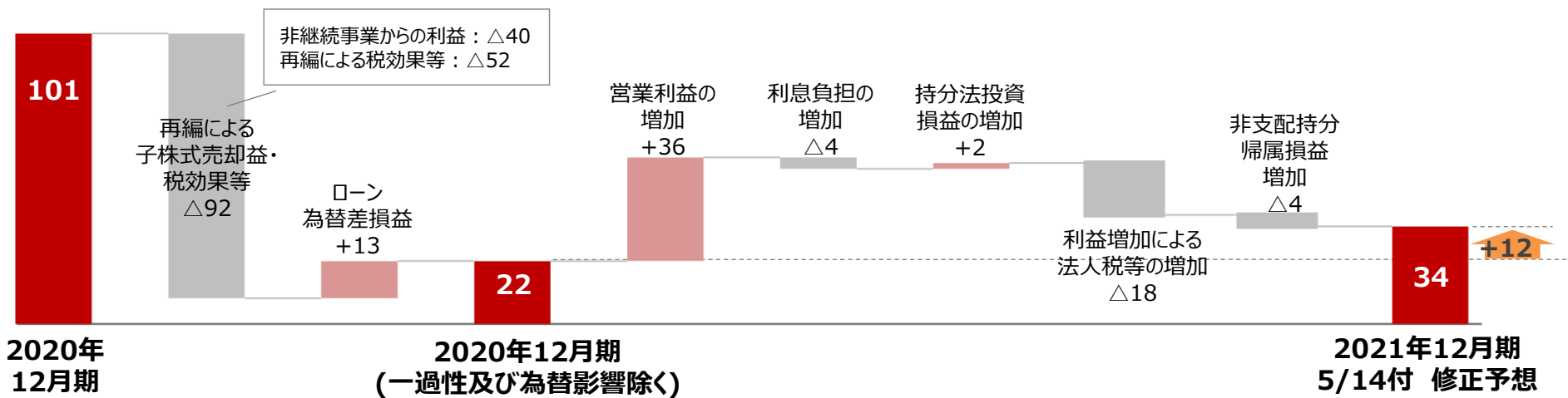
# 連結通期業績予想 増減分析 (対前期)

## <営業利益>

単位：億円



## <親会社の所有者に帰属する当期利益>

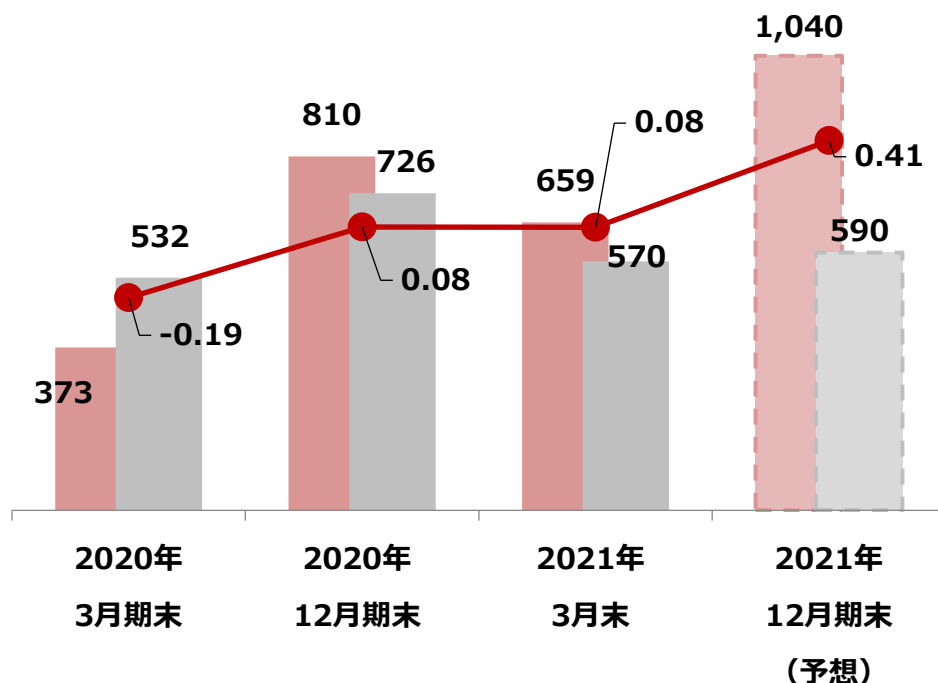


単位：億円

有利子負債

現金性資産

● Net D/Eレシオ



Net Debt	△158億円	84億円	89億円	450億円
----------	--------	------	------	-------

## 2021年3月末

- 有利子負債150億円の繰上返済を実施
- Net D/Eレシオは0.08倍で健全性を維持

## 2021年12月期末 (予想)

- 有利子負債約20億円の繰上返済を実施予定
- JLab買収について新規借入約350億円を実行。うち約100億円は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等を鑑み、手元流動性確保のための調達（1年以内に返済予定）
- Net D/Eレシオは上昇するものの、0.4倍程度の水準で財務健全性を維持

# 通期連結業績予想のポイント

※2021年5月14日更新

## 部品・材料

- 新型コロナウイルスの影響は、2Qまでは昨年と同程度と想定。3Q以降は復調を見込む
- 投資育成中のMIMは、コロナ禍においても受注が活況なことから通期で2桁成長を見込む。新工場は順次稼働を始めており、2021年中に100%稼働予定

## 音響機器関連

- AlphaThetaの部品調達関連の課題につき、2月15日開示では置換設計の早期完了により影響軽微としていたものの、その後も半導体を中心として世界的に部品の納入遅延が続いていることを受け、今回の予想修正に織込む。生産調整及び供給の遅延、物流コストの増加等、リスクを保守的に試算
- 新たにグループ入りしたJLabについては、2021年5月より連結開始
- JLab株式取得費用として2Qまでに約10億円を計上

## 医療情報

- 2月15日開示の期初予想では、当社が独自に試算した数字としていたため、5月13日にJMDCより開示された業績予想数値に更新

## 医療検査

- 1Qは、緊急事態宣言に伴う来院控えにより一定の影響を受けたが、2Q以降も成長基調を見込む

# セグメント別 売上収益／事業EBITDA（通期予想）

単位：百万円	売上収益			事業EBITDA		
	2020年12月期 (2020年1-12月) 実績	2021年12月期 (2021年1-12月) 5/14付 修正予想	対前期 増減率	2020年12月期 (2020年1-12月) 実績	2021年12月期 (2021年1-12月) 5/14付 修正予想	対前期 増減率
ものづくり	31,743	57,900	+82.4%	7,921	12,700	+60.3%
部品・材料	10,212	11,200	+9.7%	3,212	3,600	+12.1%
音響機器関連	21,530	46,700	+116.9%	4,708	9,100	+93.3%
ヘルスケア	16,441	22,100	+34.4%	4,161	5,500	+32.2%
医療情報 *1 *2	15,585	20,900	+34.1%	3,998	5,200	+30.1%
医療検査	855	1,200	+40.4%	163	300	+84.0%
その他	46	-	-	△4	-	-
全社費用	-	-	-	△807	△1,100	-
連結合計	48,230	80,000	+65.9%	11,271	17,100	+51.7%

\*1 JMDCに異動したNSパートナーズの数字を含みます。

\*2 当社の事業EBITDAは「使用権資産の減価償却費は除く」と定義している点において、JMDCが公表しているEBITDAとは異なります。

# ものづくり－設備投資・減価償却費・研究開発費（通期予想）

- 部品・材料は、3か年でMIM新工場に約24億円を投資する見込み
- 音響機器関連は、部品納入遅延の対応を優先し△2億円とするが、依然積極的に投資を行い、競争力を維持・強化（対前期+約7億円）
- JLabは現状、大掛かりな設備投資の予定なし（+1億円）

## 部品・材料

単位：百万円	2019年12月期 実績	2020年12月期 実績	2021年12月期 (2021年1-3月) 実績	2021年12月期 5/14付 修正予想	対期初予想 増減額
設備投資*1	1,302 (910)	1,376 (1,124)	109 (60)	800 (400)	-
減価償却費*2	390	503	137	600	-
研究開発費	185	163	16	100	-

\*1 かつこ内はMIM工場に係る設備投資。

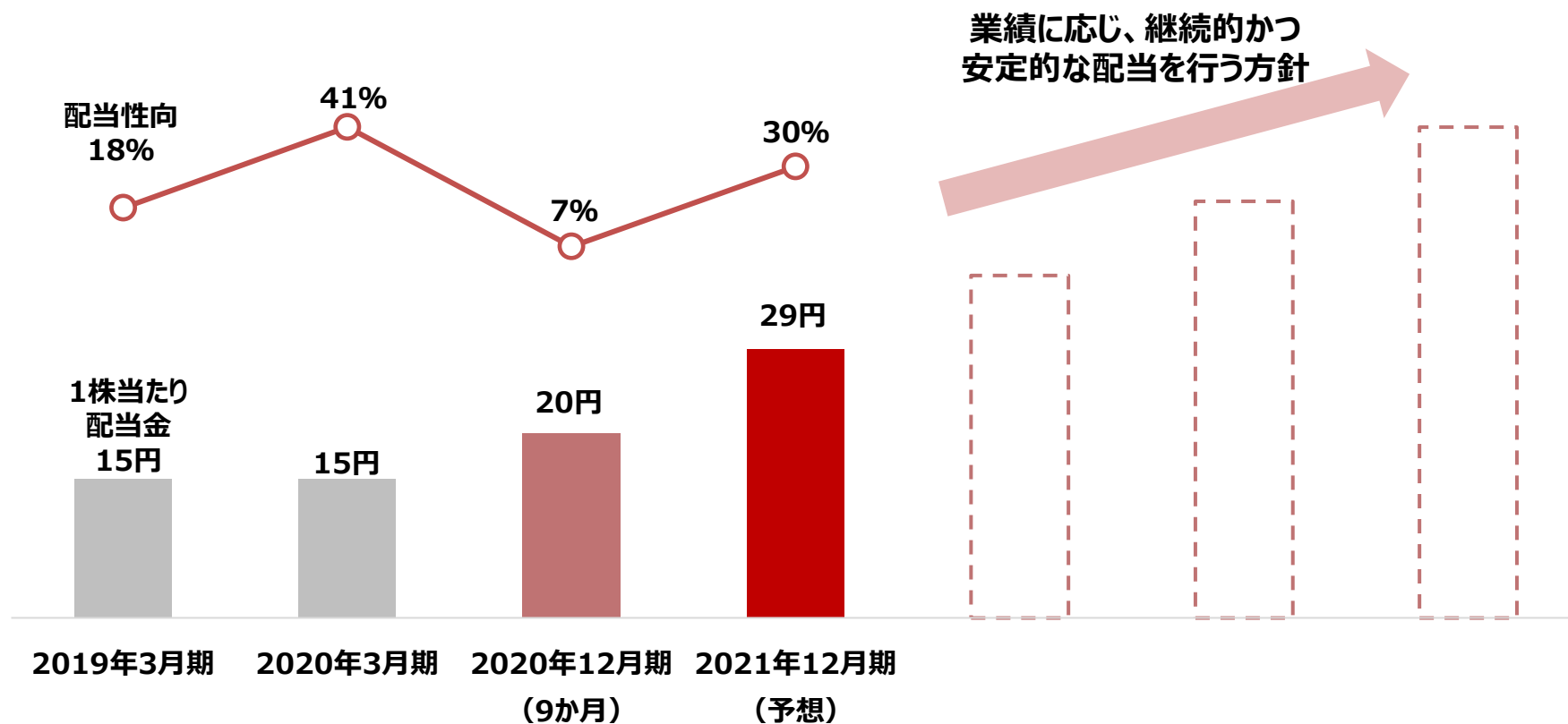
\*2 使用権資産に係る償却費及びPPA適用による償却費を除きます。

## 音響機器関連

単位：百万円	2019年12月期 実績	2020年12月期 実績	2021年12月期 (2021年1-3月) 実績	2021年12月期 5/14付 修正予想	対期初予想 増減額
設備投資	250	194	118	600	+100
減価償却費*3	250	269	69	400	+100
研究開発費	3,800	4,056	953	4,800	△200

\*3 使用権資産に係る償却費及びPPA適用による償却費を除きます。

当期の通期配当予想については、年間29円としております。





**1** 2021年12月期 第1四半期連結業績

**2** 2021年12月期 通期連結業績予想

**3** セグメント別トピックス

**4** APPENDIX

2021年5月6日に、JLabの持分取得を完了しました。

現在推進中の中期経営計画において、  
基盤事業の収益力を高め、  
成長分野へ適切な投資を行っていくことを掲げています。

コア事業であるものづくりセグメントの強化

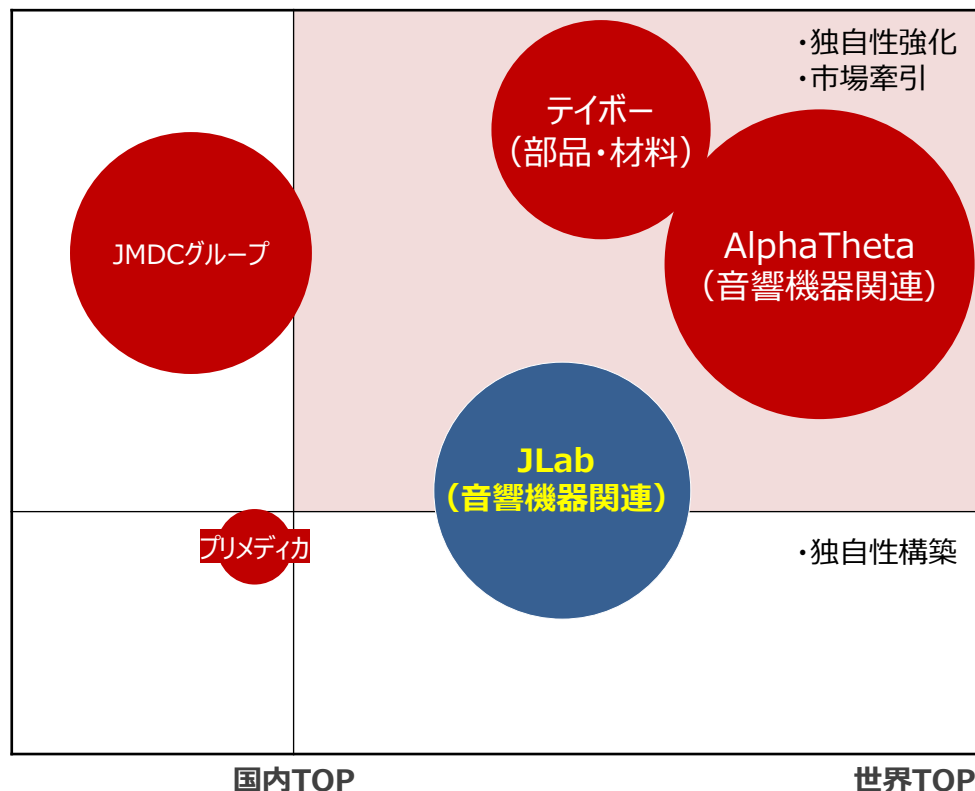
グローバルシェアを高め、収益力を向上させる

事業成長を重視し未来へ投資、中長期で成長し続ける会社へ

# 当社グループの成長シナリオ

基盤事業の収益力を高め、成長を継続。独自ビジネス/サービスでNo.1/Only1になり、市場を独走（独創）していきます。（質の高いキャッシュを創出）

収益力



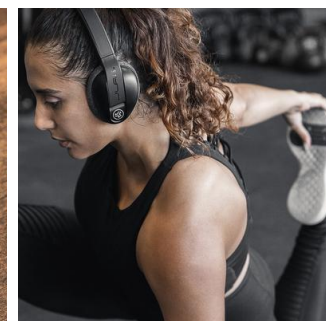
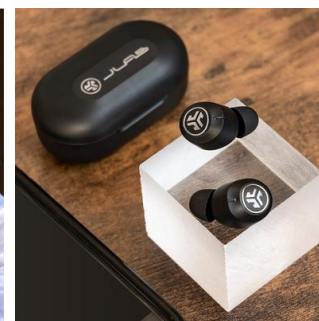
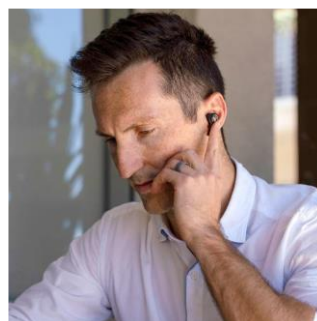
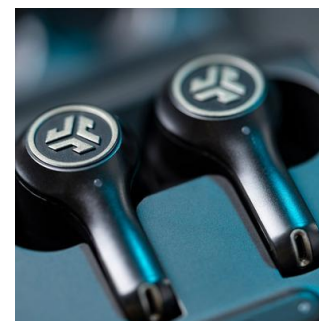
## JLabグループインの意義

- 高い成長性とユニークなポジション  
→米国No.1の100ドル以下完全ワイヤレスイヤホン
- グローバル市場を見据えたものづくり事業の拡大
- ユニークな製品ラインナップ  
→ユーザー×利用目的をカバーし、多くの人に利用していただける商品
- 心身ともに豊かさの追求  
(エンターテイメント、ライフスタイル)
- 今後期待される市場へ挑戦  
→IoT、Afterコロナなど、変化する生活に「繋がる」「参加する」サービスを提供

# PEAG, LLC dba JLab Audioの概要

- 2005年に米国カリフォルニアで設立されたポータブルオーディオブランド
- 2010年以降、ワイヤレス化ニーズに適応したことで頭角を現し、100USD以下のTrueWirelessイヤホンで全米No.1に成長

会社名	PEAG, LLC dba JLab Audio
設立	2015年8月7日
本社所在地	2281 Las Palmas Dr, Carlsbad, カリフォルニア
代表者	Winthrop Cramer , CEO
資本金	26M USD (2020年12月31日現在)
従業員数	45名 (2020年12月31日現在)
事業内容	多くの人々のニーズやライフスタイルに合わせた高品質・手ごろな価格のパーソナルオーディオおよびテクノロジー製品を企画開発、販売。
売上高	2020年12月期 19,852百万円 (米国会計基準)



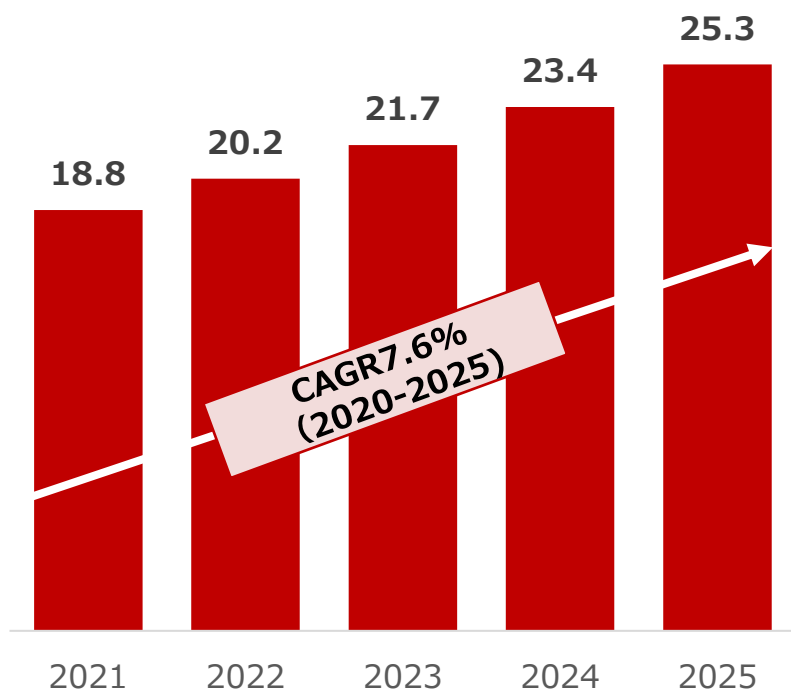
# JLabを取り巻く環境-急成長する市場セグメント

JLabは、スピーディな製品開発と市場投入戦略により独自性の高いポジションを構築、成長市場において2桁成長を継続してまいりました。

(今後も2桁成長を計画。4月の米国のセルスルー速報値は前年同月比+30%超)

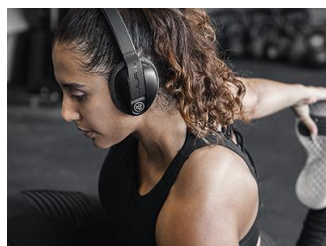
## Globalヘッドホン市場の予測

単位：\$ billion



出典：Technavio Global Headphones Market 2021-2025 (2020)

## 全米No.1のJLabシリーズ (FY2020)



50USD以下のヘッドホン  
No.1



100USD以下  
True Wirelessイヤホン  
No.1



キッズ向けヘッドホンブランド  
No.1

出典：NPD Group, Inc: The NPD Group, Inc., U.S. Retail Tracking Service, Stereo Headphones, Full Year 2020.

**1** 2021年12月期 第1四半期連結業績

**2** 2021年12月期 通期連結業績予想

**3** セグメント別トピックス

**4** APPENDIX

# 2021年12月期為替前提

## 為替レート（平均）の1円円安による通期影響額

通貨	2021年12月期 為替前提	売上収益	事業EBITDA
米ドル	106.0円	+2.8億円	+0.3億円
ユーロ	125.0円	+0.7億円	+0.7億円

## 為替レート（期末）の1円円安による通期影響額

通貨	2021年12月期 為替前提	税引前利益
米ドル	103.0円	-
ユーロ*1	130.0円	△2.4億円

※1 ユーロ建てローンの評価替えによる為替差損益。返済に伴う残高減少に伴い影響額は減少

# 連結上半期業績予想

単位：百万円	2020年12月期 (2020年1-6月) 実績	2021年12月期 (2021年1-6月) 5/14付 修正予想	対前年同期		
			増減額	増減比	
売上収益	17,942	<b>33,700</b>	<b>+15,758</b>	<b>+87.8%</b>	
事業EBITDA	3,294	<b>7,500</b>	<b>+4,206</b>	<b>+127.7%</b>	
事業EBITDAマージン	18.4%	22.3%			
営業利益	295	<b>4,000</b>	<b>+3,705</b>	<b>+1255.9%</b>	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	955	<b>1,000</b>	<b>+45</b>	<b>+4.7%</b>	
為替レート (平均)	米ドル (円)	108.3	<b>106.0</b>	<b>△2.3</b>	-
	ユーロ (円)	119.3	<b>125.0</b>	<b>+5.7</b>	-
為替レート (期末)	米ドル (円)	107.7	<b>103.0</b>	<b>△4.7</b>	-
	ユーロ (円)	121.1	<b>130.0</b>	<b>+8.9</b>	-

※現在の見通しには、潜在的なリスクや不確実性を含んでおり、本資料発表時点で想定しうる影響額及び足元の状況を織り込んでおりますが、これらの見通しとは異なる結果になる可能性があります。今後、新たに業績見通しの変動する場合には、速やかにお知らせいたします。

※2020年12月期実績は非継続事業を遡及した数字を記載しております。



# セグメント別 売上収益／事業EBITDA（上半期）

単位：百万円	売上収益			事業EBITDA		
	2020年12月期 (2020年1-6月) 実績	2021年12月期 (2021年1-6月) 5/14付 修正予想	対前年同期 増減率	2020年12月期 (2020年1-6月) 実績	2021年12月期 (2021年1-6月) 5/14付 修正予想	対前年同期 増減率
<b>ものづくり</b>	<b>10,383</b>	<b>23,300</b>	<b>+124.4%</b>	<b>2,004</b>	<b>5,600</b>	<b>+179.4%</b>
部品・材料	5,218	5,700	+9.2%	1,448	1,900	+31.2%
音響機器関連	5,164	17,600	+240.8%	556	3,700	+565.5%
<b>ヘルスケア</b>	<b>7,512</b>	<b>10,400</b>	<b>+38.4%</b>	<b>1,672</b>	<b>2,450</b>	<b>+46.5%</b>
医療情報 *1 *2	7,197	9,800	+36.2%	1,623	2,300	+41.7%
医療検査	315	600	+90.5%	48	150	+212.5%
その他	46	-	-	△4	-	-
全社費用	-	-	-	△378	△550	-
<b>連結合計</b>	<b>17,942</b>	<b>33,700</b>	<b>+87.8%</b>	<b>3,294</b>	<b>7,500</b>	<b>+127.7%</b>

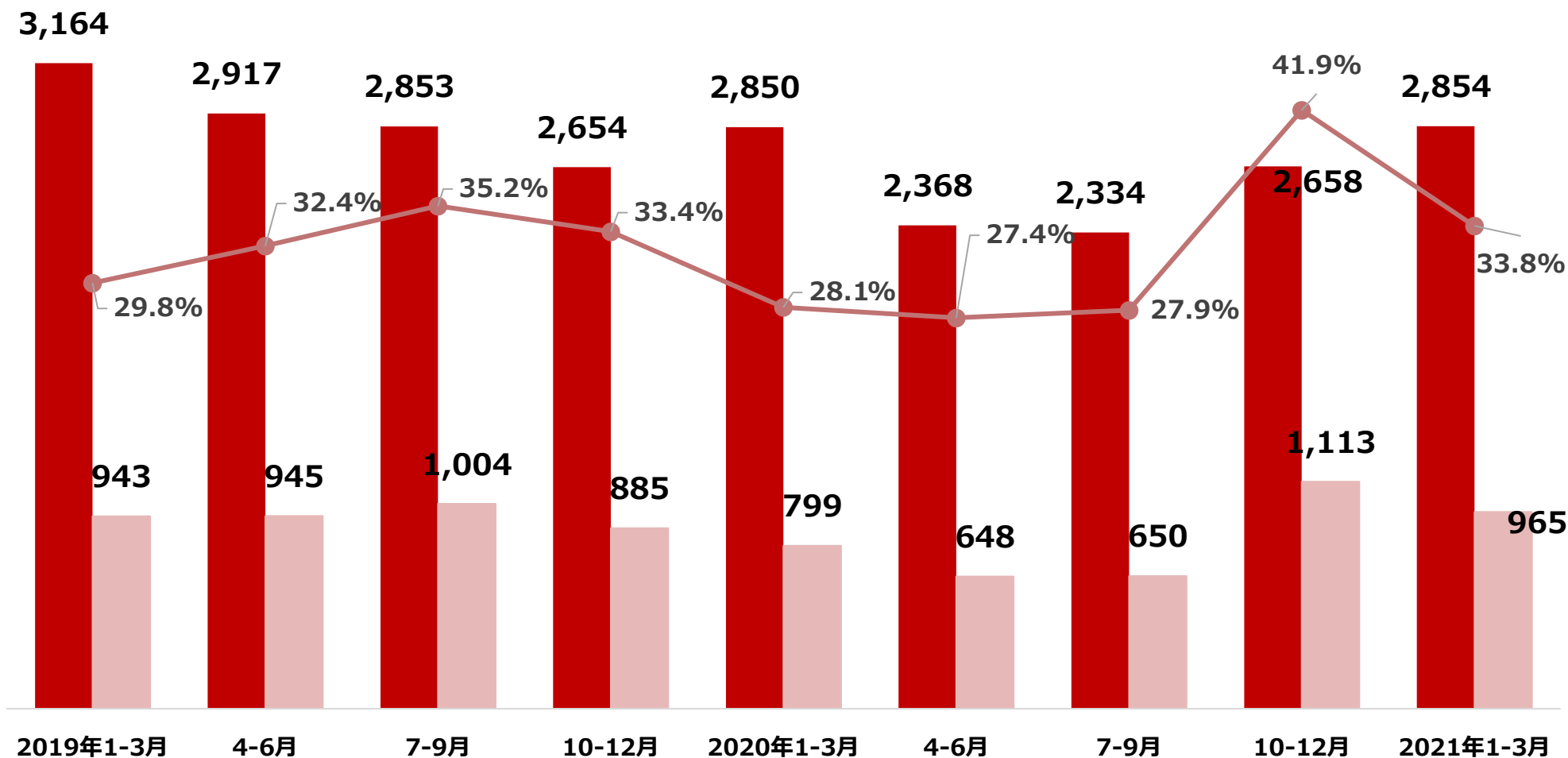
\*1 JMDCに異動したNSパートナーズの数字を含みます。

\*2 当社の事業EBITDAは「使用権資産の減価償却費は除く」と定義している点において、JMDCが公表しているEBITDAとは異なります。

# 四半期推移 – ものづくりセグメント – 部品・材料

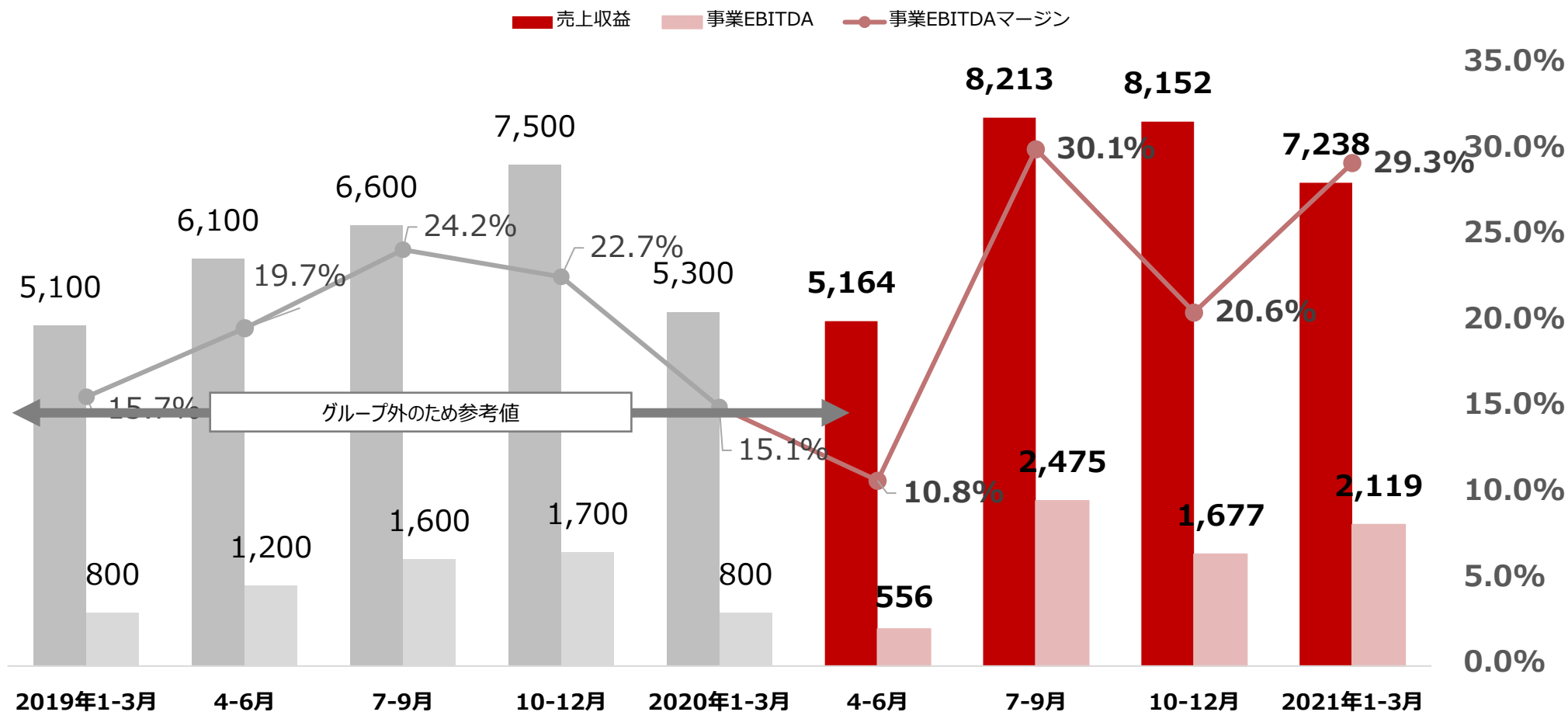
■ 売上収益 ■ 事業EBITDA ● 事業EBITDAマージン

単位：百万円



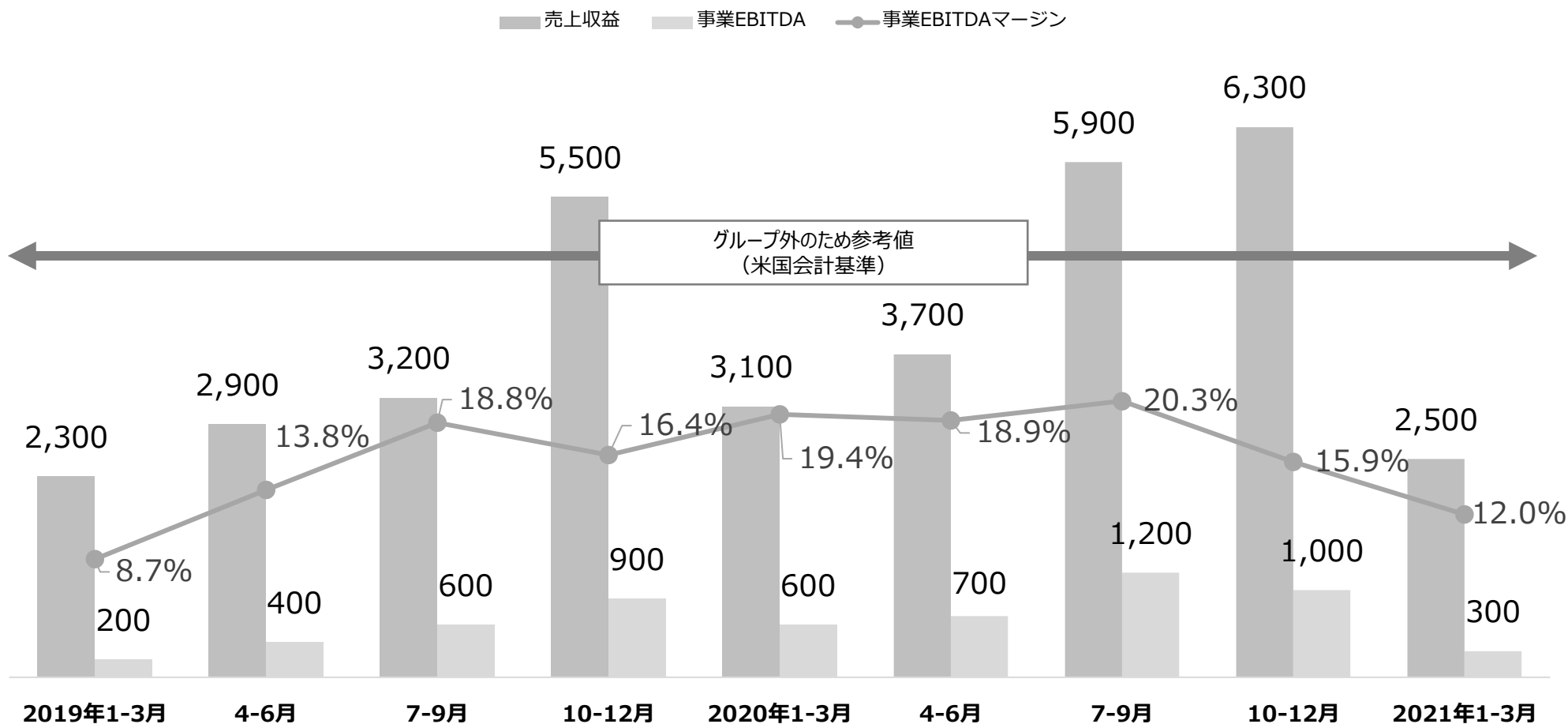
# 四半期推移 – ものづくりセグメント – 音響機器関連 (AlphaTheta)

単位：百万円



# 四半期推移 – ものづくりセグメント – 音響機器関連 (JLab)

単位：百万円

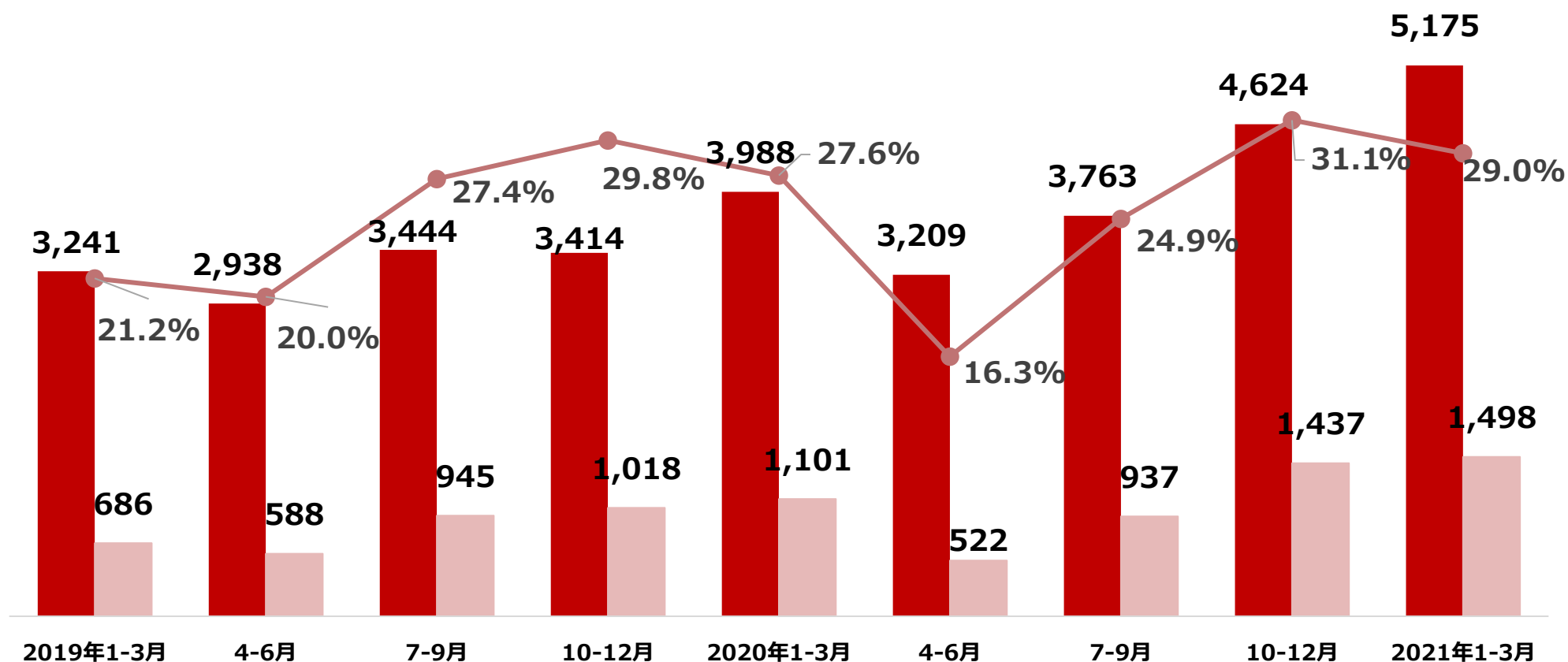


\*1 換算レート 1米ドル106円

# 四半期推移－ヘルスケアセグメント－医療情報

単位：百万円

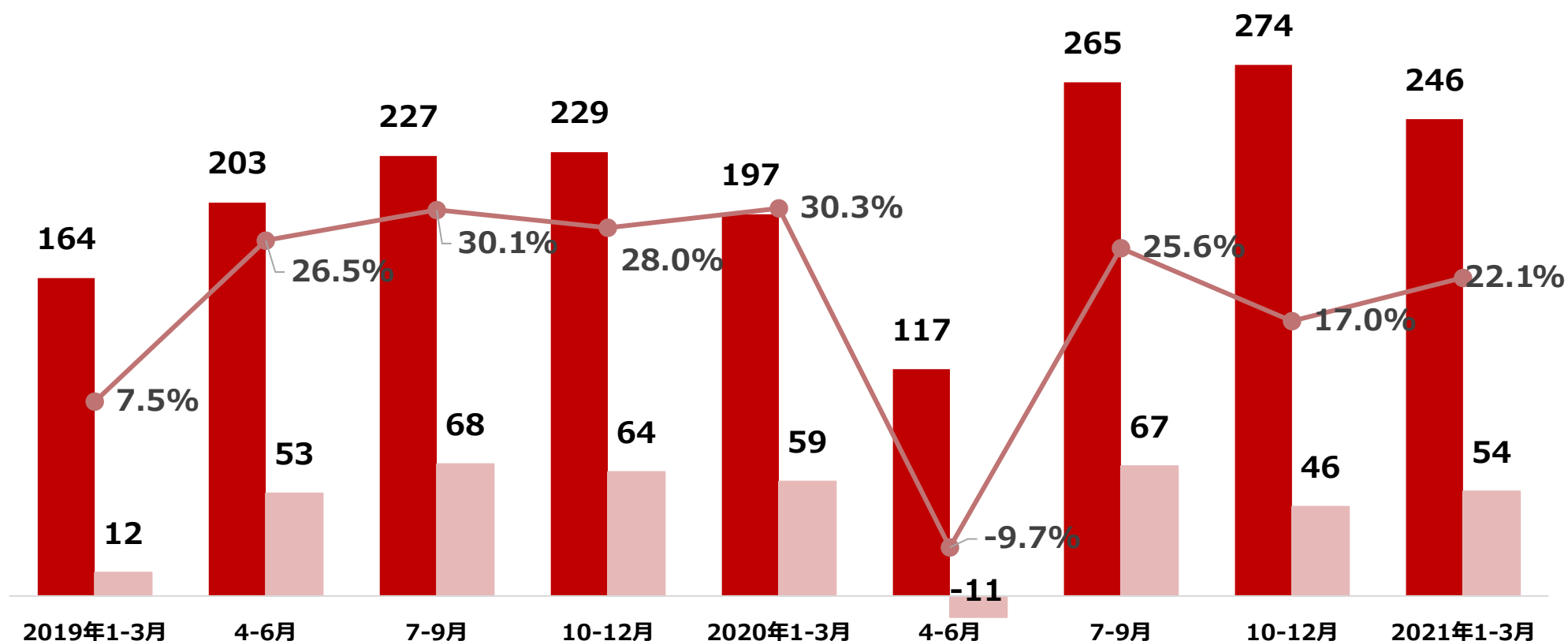
■ 売上収益   ■ 事業EBITDA   ● 事業EBITDAマージン



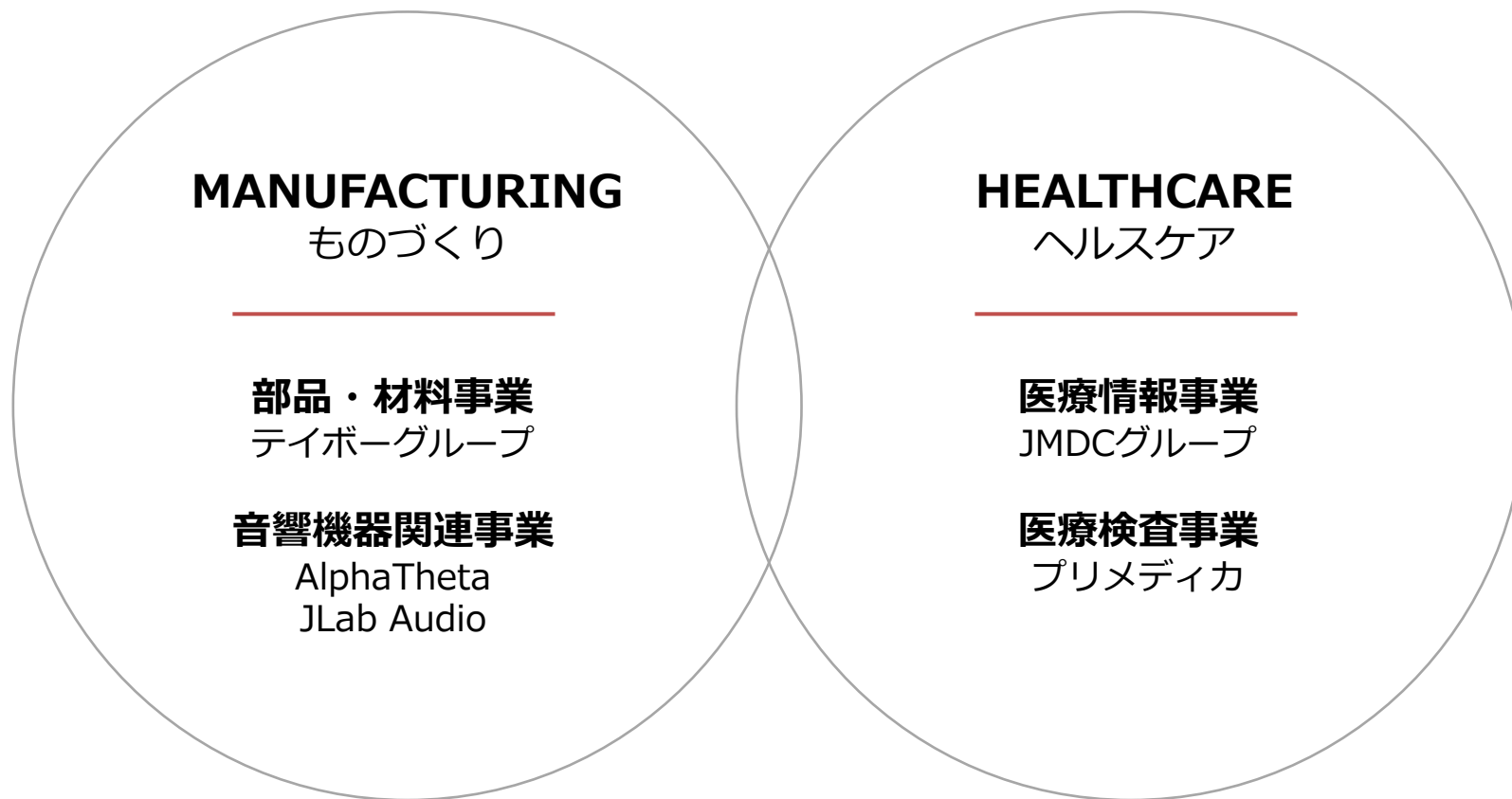
# 四半期推移－ヘルスケアセグメント－医療検査

単位：百万円

■ 売上収益   ■ 事業EBITDA   ● 事業EBITDAマージン



- コア事業を「ものづくり」と「ヘルスケア」と定義し、基盤ビジネスの収益力を高めながら、独自ビジネス/サービスを提供し、成長性ある事業体を目指します。



**MANUFACTURING**  
ものづくり

● **PARTS/MATERIALS**  
部品・材料

● **AUDIO EQUIPMENT/PERIPHERALS**  
音響機器関連

**HEALTHCARE**  
ヘルスケア

● **MEDICAL INFORMATION**  
医療情報

● **MEDICAL TESTING**  
医療検査



# テイボー株式会社

ノーリツ鋼機グループの基盤事業であるものづくり事業セグメントの中核企業として、世界トップシェアのペン先事業を中心に、卓越した技術開発力でコスメ事業やMIM事業など新分野へ挑戦し、新たな市場を開拓する

## 社会的問題・ニーズ

- 日本が誇るものづくり技術の継承
- 中小・地方発のグローバル企業

## 私たちが提供できる価値・サービス

- 長年培ってきた技術開発力であらゆる先端部品・部材及び極小部品を提供し、世界中のお客様メーカーのニーズに応える
- ニッチ市場における圧倒的なグローバルシェアで、日本の中小ものづくり企業市場におけるリーディングカンパニーであり続ける

## 会社概要

会社名： テイボー株式会社  
 代表者： 代表取締役会長 高原建司  
 資本金： 50百万円  
 主要株主： ノーリツ鋼機株式会社（100%）  
 事業内容： 筆記分野ペン先部品（フェルト、合成繊維、プラスチック）、非筆記分野先端部材、MIM製造部品、コスメ用ペン先部品（合繊芯、プラスチック芯、ポリブチレンテレフタレート樹脂（PBT）ブラシなど）等の製造・販売  
 グループ会社： 泰宝制筆材料(常熟)有限公司（テイボー100%子会社）  
 マーキングペン先部品の中国（江蘇州）における製造・販売拠点  
 株式会社 soliton corporation（テイボー100%子会社）  
 コスメ用ペン先部材の製造・販売

## 主要事業



※中空の鋳物を作るための鋳型を成形する技術→中空（製品の内部が空洞となった形状）の金属部品を作る技術

# AlphaTheta株式会社

「音楽で人をつなぐ」  
創造力で音楽の可能性を広げ、よろこびに満ちあふれる世界を実現  
グローバルトップシェアを誇る「Pioneer DJ」で知られるブランドで  
革新的な商品・サービスを創造し、音楽文化の発展に努める

## 社会的問題・ニーズ

- 日本が誇るものづくり技術の継承
- 産業におけるアーティストの地位向上、アーティストの創作活動の保全

## 私たちが提供できる価値・サービス

- CDJに代表される世界初の商品を生み出してきた技術開発力と世界トップシェアのブランド力で、プロフェッショナルからコンシューマーまで幅広いニーズに対応し音楽文化の浸透創造を支援する
- 独自プラットフォームを中核に「人」「モノ」「コト」をつなぎ新たなコミュニケーションを通して新しい音楽表現、演奏スタイルを提案しアーティスト活動を支援する

## 会社概要

会社名： AlphaTheta株式会社（旧Pioneer DJ株式会社）  
 代表者： 代表取締役社長 片岡芳徳  
 資本金： 1億円（2019年12月31日現在）  
 主要株主： ノーリツ鋼機株式会社  
 事業内容： DJ/CLUB機器、業務用音響機器、音楽制作機器の商品開発・設計・及び販売、  
 ならびにそれらのサービスに関する事業  
 販売子会社： AlphaTheta EMEA Limited  
 AlphaTheta Music Americas, Inc.  
 AlphaTheta (Shanghai) CO., Ltd.

## 主な沿革

1994年 パイオニア株式会社の一事業として世界初のフラットトップ型DJプレーヤーCDJ500の発売  
 1995年 世界初“BEAT EFFECT”を搭載した初代プロDJミキサーDJM-500を発売  
 2012年 スマートフォン接続も可能にしたプロDJ向けマルチプレーヤーCDJ-2000NXSを発売  
 2014年 クラブクオリティを追求したプロ用アナログターンテーブルPLX-1000を導入  
 2015年 パイオニア株式会社より株式分割により事業独立。本社をパイオニア株式会社旧川崎本社に設置  
 2015年 楽曲管理アプリケーション「rekordbox™」で独自開発したDJプレイ機能「rekordbox dj」を搭載したver.4.0にアップデート  
 2015年 本社を神奈川県横浜市西区みなとみらい4丁目4番地5号の横浜アイマークプレイスに移転  
 2016年 音楽プロデューサー/DJ/ライブパフォーマー向けに多彩な表現で直感的に音楽製作ができる「TORAIZ SP-16」を発売。楽曲製作市場へ本格参入  
 2019年 横浜にDJスクールPioneer DJ横浜Labを開校  
 2020年 「AlphaTheta株式会社」（アルファシータ）に社名変更  
 2020年 ノーリツ鋼機グループ入り

## 主要事業

1994年より、CDJプレーヤー、DJミキサーを軸としたDJ機器を商品開発・設計・販売。



# PEAG, LLC dba JLab Audio

「JLab Audio」ブランドとして 2005 年にカリフォルニアで設立  
100USD以下のTrue Wirelessイヤホン市場において、2020年度全  
米 No.1を獲得した、米国で最も注目されているオーディオブラン  
ド、手頃な価格で高性能なオーディオ製品を展開

## 社会的問題・ニーズ

- 多様化するライフスタイル、新しい生活様式への対応
- 仕事、教育、モビリティなどデジタル化が求められる環境

## 私たちが提供できる価値・サービス

- リモートワーク、eコマース、オンライン学習など、拡大するIT環境（コミュニケーション）ニーズに対応するオーディオ製品を手ごろな価格で多くの方に提供、すべての人に心地よい生活を提供する
- デバイスが必要とされる場所や施設、国や世界中の方へ、オーディオ製品を通じた新しいコミュニケーション機会を創出、環境づくりを支援

## 会社概要

会社名： PEAG, LLC dba JLab Audio  
代表者： Winthrop Cramer, CEO  
資本金： 26M USD（2020年12月31日現在）  
事業内容： パーソナルオーディオデバイスおよびテクノロジー製品の設計及び販売

## 主要事業

2005年設立以来、高性能で手ごろな価格のポータブルオーディオ機器を開発・販売  
2010年以降、ワイヤレス化ニーズに適応したことで頭角を現し、100USD以下のTrue Wirelessイヤホンで  
全米No.1に成長

## 主な沿革

2005年 JLabブランドとして設立  
2013年 米国Amazonでイヤホンのトップセールスブランドとなる  
2014年 子供向け専用製品の販売開始  
2015年 Walmartでの販売を開始  
2016年 Best Buyでの販売を開始  
本社をカールスバッド（カリフォルニア）へ面積を拡大し移転  
2017年 True Wireless製品の販売開始  
MLS（メジャーリーグサッカー）の公式オーディオパートナーとなる  
2018年 海外向けの販売開始  
2019年 ゲーミング専用製品の販売開始  
2020年 アクティブノイズキャンセリング製品の販売開始

## オーディオデバイス事業（企画・開発・販売）

高性能  
機能性



Active Noise Cancelling



EQ<sup>3</sup>



Built-In Charging Cable



Long Battery Life



Water Resistance



Product Fit



Connectivity & Pairing Protocols

様々な  
利用目的



手頃な  
価格帯



\$9



\$19



\$29



\$34



\$39



\$69



\$99

## 主な米国No.1商品

- No.1 in Headphones Under 50 USD
- No.1 in True Wireless under 100 USD
- No.1 kids headphone brand

出典：NPD Group, Inc: The NPD Group, Inc., U.S. Retail Tracking Service, Stereo Headphones, Full Year 2020.

**MANUFACTURING**  
ものづくり

● **PARTS/MATERIALS**  
部品・材料

● **AUDIO EQUIPMENT/PERIPHERALS**  
音響機器関連

**HEALTHCARE**  
ヘルスケア

● **MEDICAL INFORMATION**  
医療情報

● **MEDICAL TESTING**  
医療検査

## JMDCグループ

## 社会的問題・ニーズ

- 本格的な高齢化社会の到来
- 政府主導による“健康経営”の浸透
- 医療費の増加、介護負担の増加にともなう医療費の抑制
- 健康寿命の延伸

## 会社概要

会社名： 株式会社JMDC  
 代表者： 代表取締役社長兼CEO 松島陽介  
 資本金： 34億1,247万円(2019年12月15日現在)  
 主要株主： ノーリツ鋼機株式会社  
 事業内容： 医療統計データサービス

## 主な沿革

2002年1月 会社設立  
 2003年12月 製薬会社向け医療DB Quick Analysis (QA) 販売開始  
 2005年8月 製薬会社向け医療DB P-MarketBase (PMB) 販売開始  
 2005年11月 製薬会社向け医療DB D-MarketBase (DMB) 販売開始  
 2008年8月 製薬会社向け医療DB JMDC Data Mart (JDM) 販売開始  
 2012年4月 保険者・事業主向け保健事業支援ツール「健助」販売開始  
 2013年5月 ノーリツ鋼機グループ入り  
 2015年6月 ヘルスデータ・プラットフォーム株式会社を子会社化  
 2018年 株式会社ドクターネット、ユニケソフトウェアリサーチグループ、株式会社クリンタルを子会社化  
 2019年12月 東京証券取引所マザーズ上場

## 主なグループ会社

株式会社ドクターネット  
 株式会社ユニケソフトウェアリサーチ  
 メディカルデータベース株式会社  
 NSパートナーズ株式会社

## 「健康で豊かな人生をすべての人に」 データとICTの力で、持続可能なヘルスケアシステムを実現 医療ビッグデータが持つ可能性を追求し新たな価値創造、社会へ還元

## 私たちが提供できる価値・サービス

- 健保組合等を通じて得たデータの第三者への提供・販売、個人向け健康情報プラットフォーム
- 遠隔画像診断サービスの提供
- 薬局向けレセコン・電子薬歴の開発・提供

## ビジネス概要

ヘルスケアバリューチェーンのプレーヤーに対しさまざまなサービスを提供すべく準備を整えています。その取り組みの結果として得られたデータとノウハウが当社の強みを引き上げます

ビジネス運営主体	ビジネス概要	顧客	KPI	
ヘルスビッグデータ事業	データ利活用（2次利用） 健保や医療機関などの疫学データを匿名加工化し提供	製薬会社、生損保会社、研究機関、医療機器メーカーなど	・契約企業数 ・顧客1社あたりの年間取引額	
	生活者・保険者向け（1次利用） データ分析及び健保組合員向けのICT「PepUp」プログラムの提供	健保組合、自治体、事業主など	・母集団数 ・PepUp ID発行数 ・年間5000円以上のサービス利用者人数	
	メディカルデータベース	医療機関向け薬剤DBや医療機関の経営改善に資するデータ分析の提供	医療機関、薬局など	・契約施設数 ・データ獲得患者数
遠隔医療事業	ドクターネット	遠隔画像診断サービスの提供	医療機関、検診センターなど	・契約施設数 ・契約読影医数 ・施設当たり依頼数
調剤薬局支援事業	ユニケソフトウェアリサーチ	薬局向けレセコン・電子薬歴の開発・提供	調剤薬局など	・契約施設数 ・月額課金率



# 株式会社プリメディカ

脳梗塞・心筋梗塞のリスク検査「LOX-index®」をはじめとする  
様々な予防医療サービスを提供  
日本発、予防医療のグローバルカンパニーを目指す

## 社会的問題・ニーズ

- 本格的な高齢化社会の到来
- 政府主導による“健康経営”の浸透
- 少子高齢化に伴う医療・介護需要の拡大、医療費の増加、介護負担の増加

## 私たちが提供できる価値・サービス

- 疾病のリスク検査/早期発見検査
- 予防医療の普及による、より良い社会への貢献
- 医師のネットワークを活かした品質の高いサービス（検査）の提供

## 会社概要

会社名： 株式会社プリメディカ  
 代表者： 代表取締役社長 富永 朋  
 資本金： 1億2,195万円（2019年3月期末）  
 主要株主： ノーリツ鋼機株式会社  
 事業内容： 予防医療事業、最先端医療の技術研究・開発事業

## 主な沿革

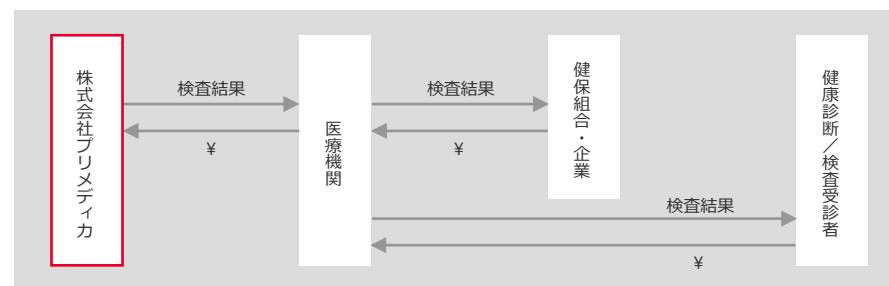
2010年7月 医療分野の事業開拓を行うNKメディコ株式会社をノーリツ鋼機100%子会社として設立  
 2012年6月 脳梗塞・心筋梗塞の発症リスク検査「LOX-index®」の提供を開始  
 2017年8月 脳梗塞・心筋梗塞の発症リスク検査「LOX-index®」の累計受診者数が 10 万人を突破  
 2019年1月 脳梗塞・心筋梗塞の発症リスク検査「LOX-index®」の累計受診者数が 20 万人を突破  
 2020年3月 脳梗塞・心筋梗塞の発症リスク検査「LOX-index®」の累計受診者数が 30 万人を突破  
 2021年4月 NKメディコ株式会社から、「株式会社プリメディカ」に社名変更

## 検査導入施設数推移



## 事業モデル

- 事業開始時からの強みである医師との太く広範なネットワークを活用し、医師・患者にとって安心できるサービスを提供。また、最先端医療技術シーズの事業化も支援



## 主要サービス

- LOX-index®
  - 脳梗塞（日本人の主要な死因の第3位）、心筋梗塞（同第2位）のリスク検査で、全国1,700施設以上が導入、累計30万人が受診（2020年2月末現在）
  - たった2mlの採血により、動脈硬化の原因物質を測定。既存の検査項目では判定が難しかった動脈硬化の初期段階から、プラークの進展、脳梗塞・心筋梗塞などの疾患の危険度まで、幅広くカバーできる検査項目を採用
- このほか、認知症スクリーニング検査、乳がんリスク検査、消化器がんのスクリーニング検査、慢性腎臓病のリスク検査、健康年齢®レポート、アンチエイジングドックなどの体質検査、腸内フローラ検査、遺伝子検査などを提供

LOX-index®

**本資料に記載されているいかなる情報も、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。また、当社は当資料の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。**

**本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。**